

# 僕等への贈り物

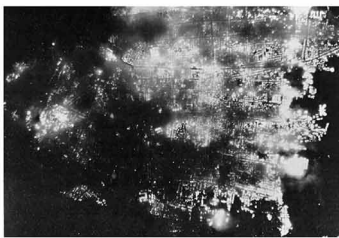
子供の遊ぶ声 目の前を流れる運河の音 白い煙を上げる工場

僕等の知らない 僕等への贈り物



## 消えゆく富山大空襲の記憶

1945年8月2日、富山県富山市中心部は米軍の空襲を受けた。爆撃目標の99.5%が焼失し、約3000人ものが亡くなり、全国的にも例を見ない被害であった。そして空襲の2週間後の8月15日に終戦を迎える。戦後から70年たった現在、富山大空襲を伝える場所は未だに存在していないばかりか、空襲体験を語り継ぐ人は年々減少してしまっているのが現状である。消えゆく富山大空襲の記憶を風化させないために、富山大空襲の資料館を計画する。



## 空襲に関する5つの事実

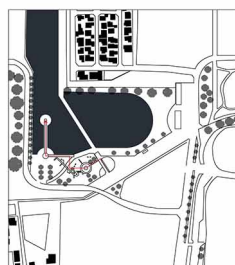
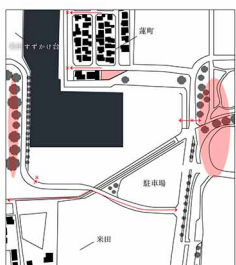
- 1 四都市同時空襲
- 2 99.5%の面積焼失率
- 3 祝賀大爆撃
- 4 新興工業都市計画
- 5 住友運河

富山大空襲と富山市北部地域に関する5つの事実を空間として昇華し、追体験型の資料館を計画する。



## 役目を終えた運河と旧貯木場

敷地は富山県富山市北部地域に位置する住友運河と旧貯木場である。住友運河は戦後、沿岸に工場が建てられ、輸送路として使用された。昭和47年には先端に貯木場がつくれ、輸送路から水面貯木場へと移り変わっていったが、徐々に貯木場としての利用は少なくなり、現在では、町の親水空間としての整備が進んでいる。



① 周辺は住宅街であり、近くには大型のスポーツ公園や中学・高等学校などの教育施設も存在し、周辺は子供達の姿が多く見られる。旧貯木場は周囲との関係を断っており、それにより3つの公園はそれぞれ独立し、3つの町は分断されている。

② 旧貯木場を周囲に対して開き、東西をつなぐ軸と水辺沿いに回遊動線をもつける。それぞれの場所の特性に合わせて、カフェ・親水空間・展望台・子供の遊び場を配置し、日常的に親水公園として利用できるよう、旧貯木場全体を計画する。

③ ランドスケープに合わせて、資料館を配置する。日常としての公園と非日常としての資料館は断片的な関係をもつことで、空襲の記憶は、子供のころの遊びの記憶とともに受け継がれていくきっかけとなる。





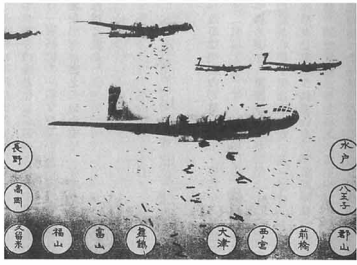
# 1 四都市同時空襲

1945年6月、アメリカ軍はターゲットを大都市から地方の中小都市に移し、敗戦までに16回で57都市を空爆した。

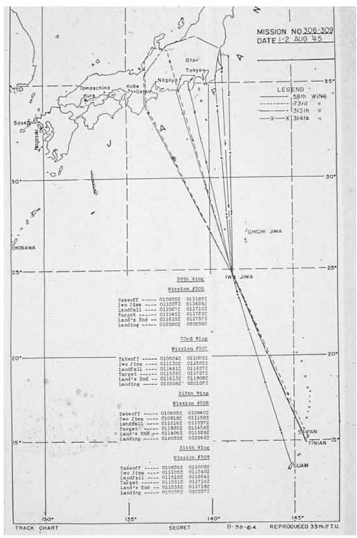
富山市はその第13回目にあたり、8月1日に長岡・水戸・八王子とともに「四都市同時空襲」に見舞われた。

午後10時頃、富山市上空を長岡へ空襲に向かう130機ものB29が通り過ぎ、富山市の人々は空襲が来たと思い避難をするが、無事に過ぎ去ったがために安心し、多くの人がそのまま警戒を解いてしまった。

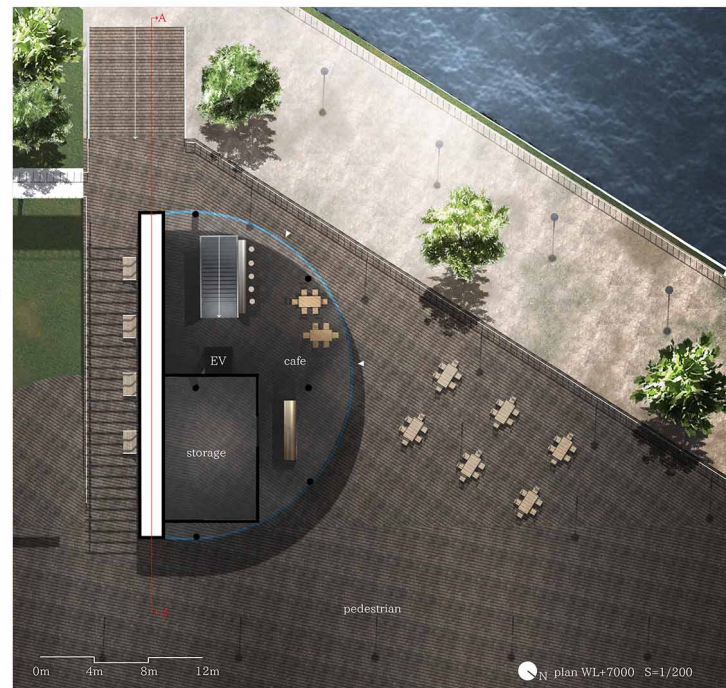
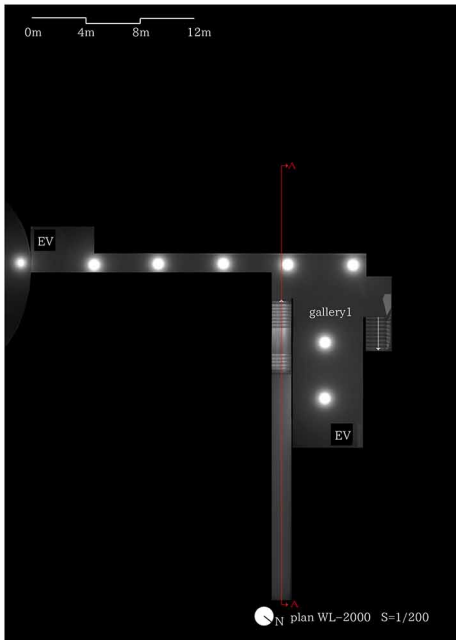
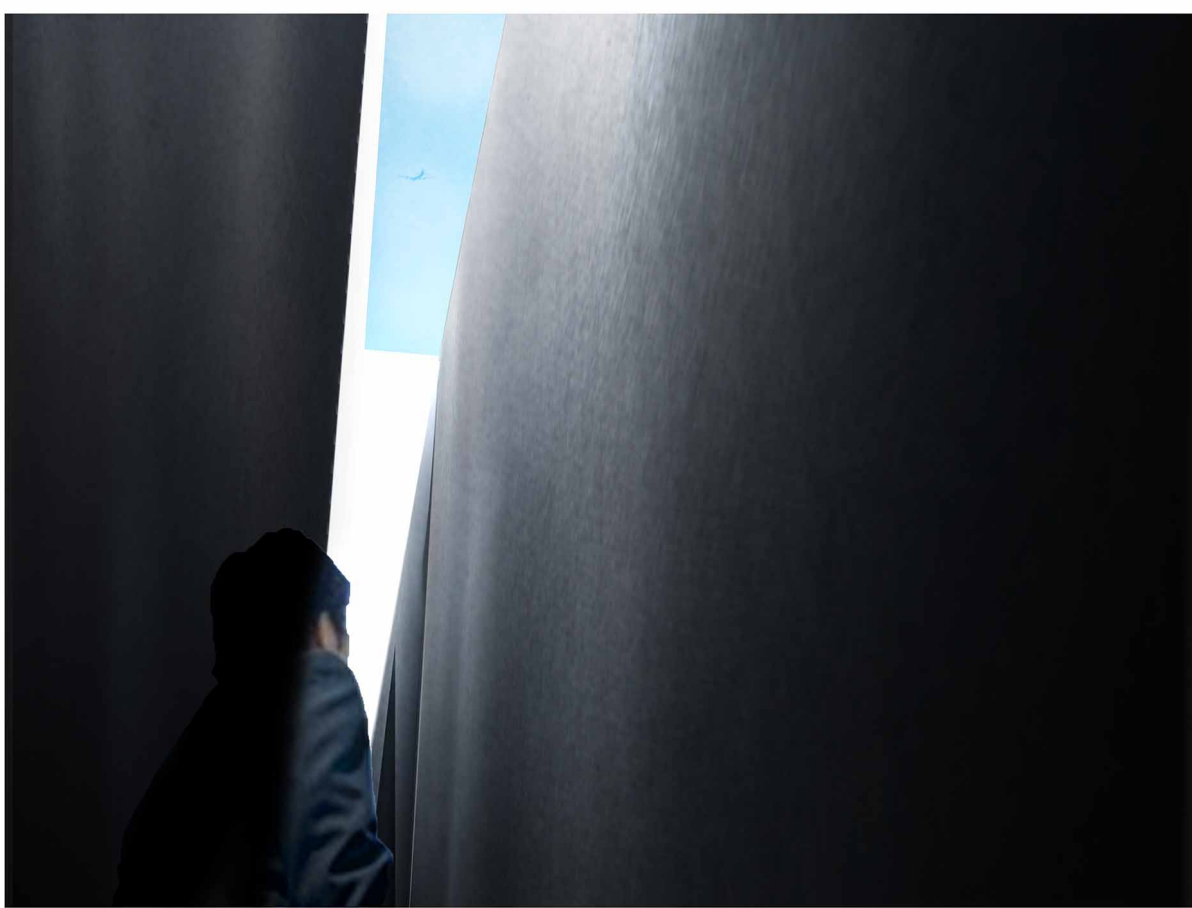
いわば「寝込みを襲われた」のだった。



日本空襲の際、米軍がB29から撒いた「予告ビラ」



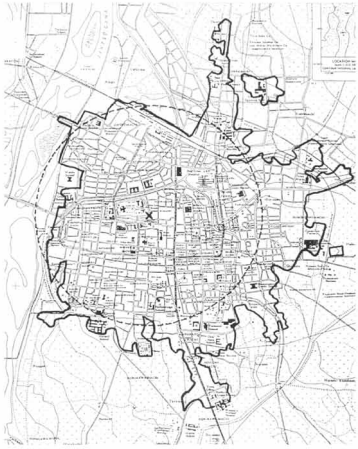
マリアナから飛行経路図





2 99.5%

8月2日0時36分第1弾投下。2時27分までの111分間の間に、50万個の焼夷弾が降り注いだ。空爆目標地域の実に99.5%を焼き付くし、当時の富山市の総面積で割ると、16畳に1本もの割合だった。



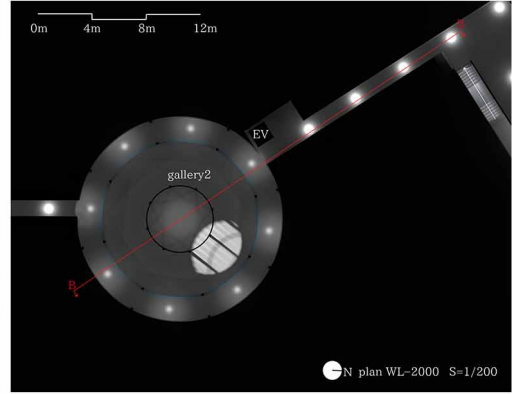
富山市の損害区域図



N plan WL+7000 S=1/200



N plan WL+2000 S=1/200



N plan WL-2000 S=1/200



South elevation S=1/100



B-B section S=1/100



## 5 住友運河

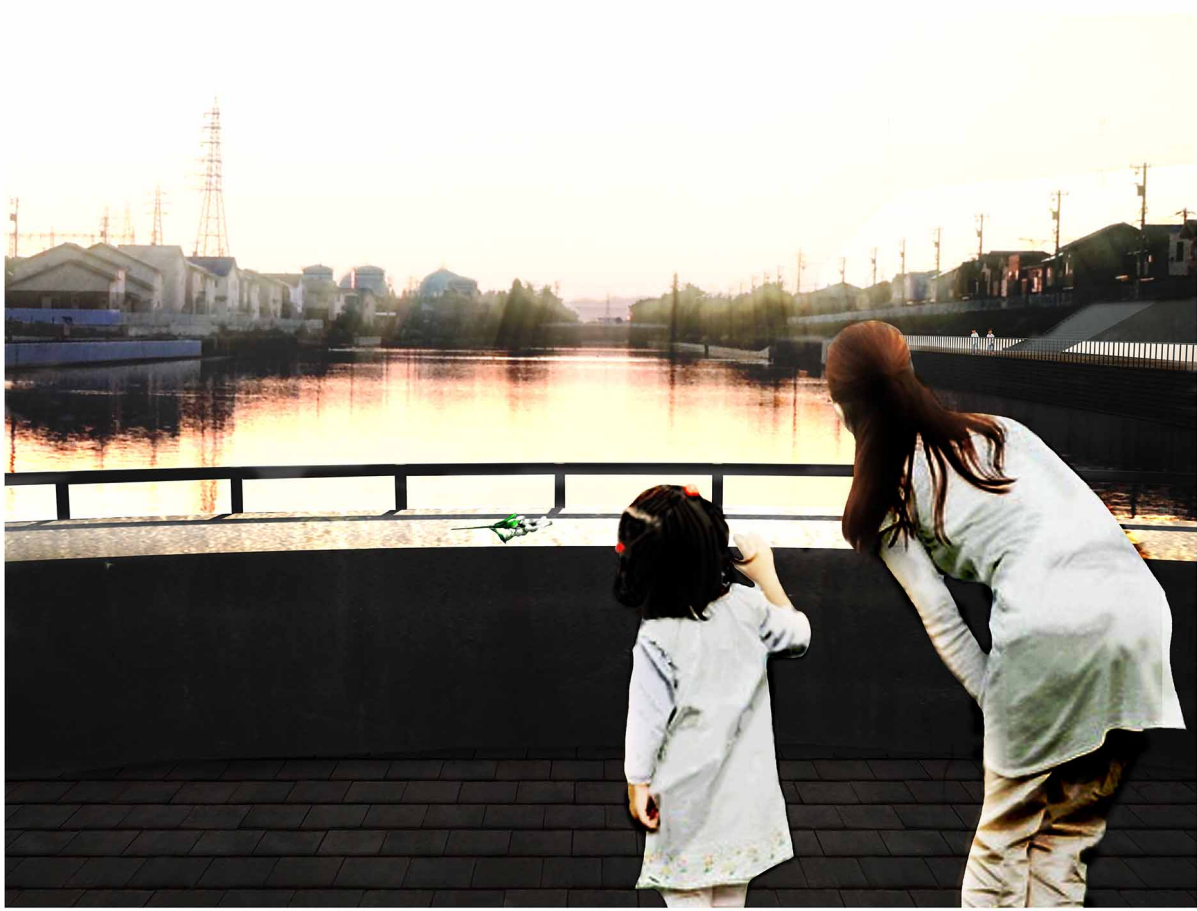
敷地である住友運河は計画時に誘致された住友金属が自社専用の運河として造成することで生まれた。

この町には、ちょうどナチス・ドイツが戦争遂行のために工場地帯をつくり、アウトバーンをつくったのが戦後のドイツの経済成長の基盤となったのに似て、この富山市北部地域にも歴史的な皮肉が残っている。

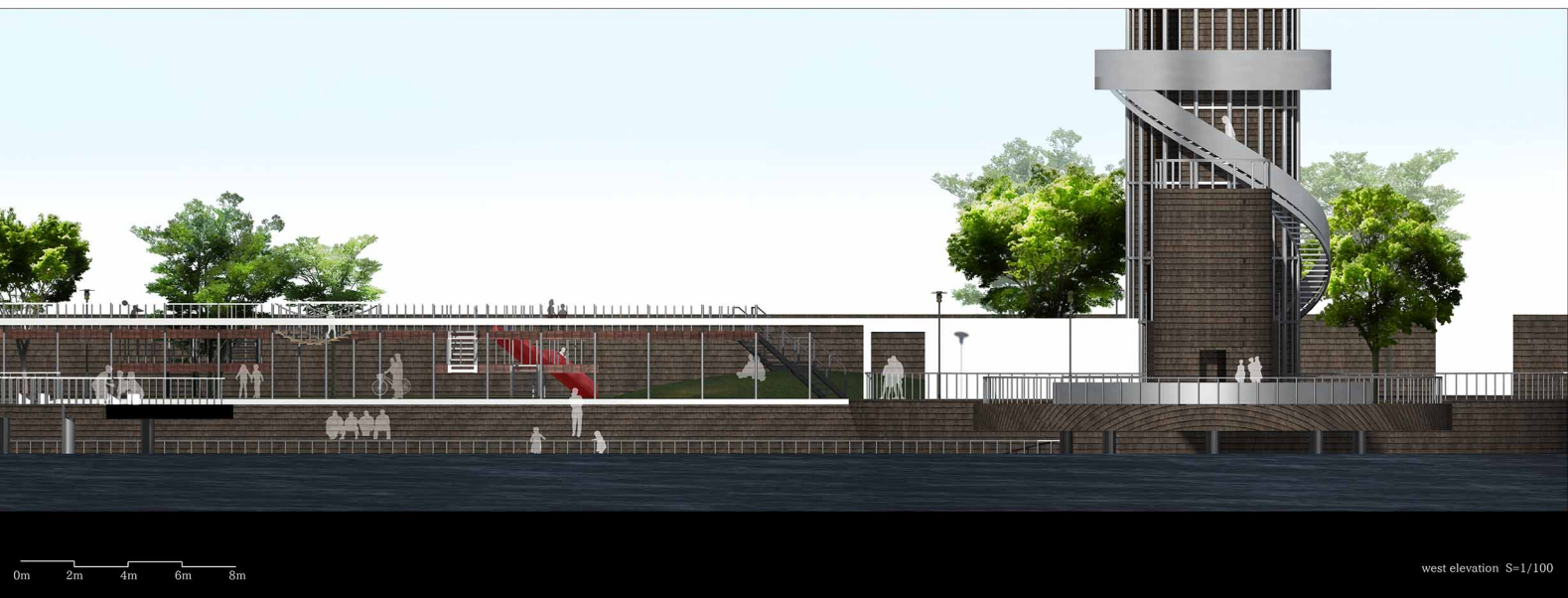
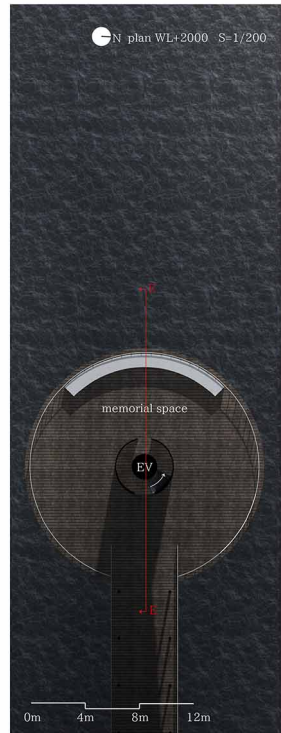
住友運河も戦後、沿岸に工場が建てられ、輸送路から水面貯木場へ移り変わっていったが、現在では、貯木場の役割を終え、町の親水空間としての整備が進んでいる。

日常化する戦争の遺構と非日常化する戦争の記憶

僕等への贈り物は、今日も僕等の生活を支えている。  
でもその裏には、多くの犠牲があった。



住友運河の変遷





## 4 新興工業都市計画

富山市北部地域は戦時に新興工業都市計画によって多くの軍需工場が計画され、鉄鋼やアルミニウムを主に生産する軍需工業地域だった。多くの若者が工場にかり出される一方で、この大きな工業地帯によって、富山市は米軍にとって攻撃目標の候補としてあげられ、富山大空襲は起こった。しかし、実際に爆撃目標となったのは中心市街地であった。三千人もの死者が出た一方で、工業地帯の被害は少なく、空襲から約2週間後の8月15日に終戦を迎える。

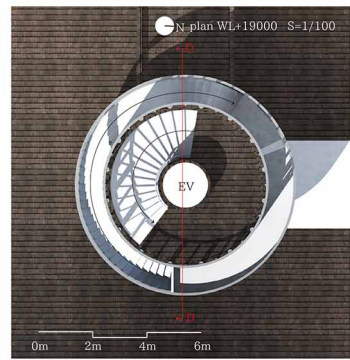
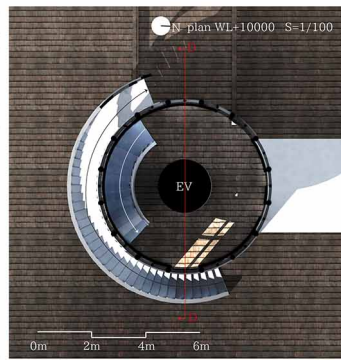
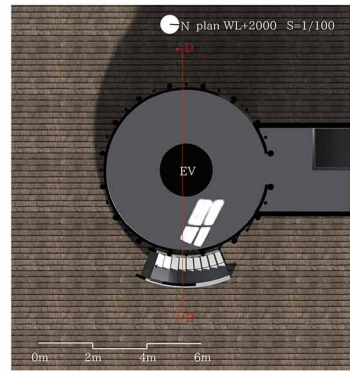
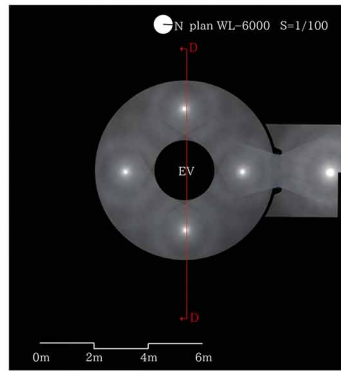
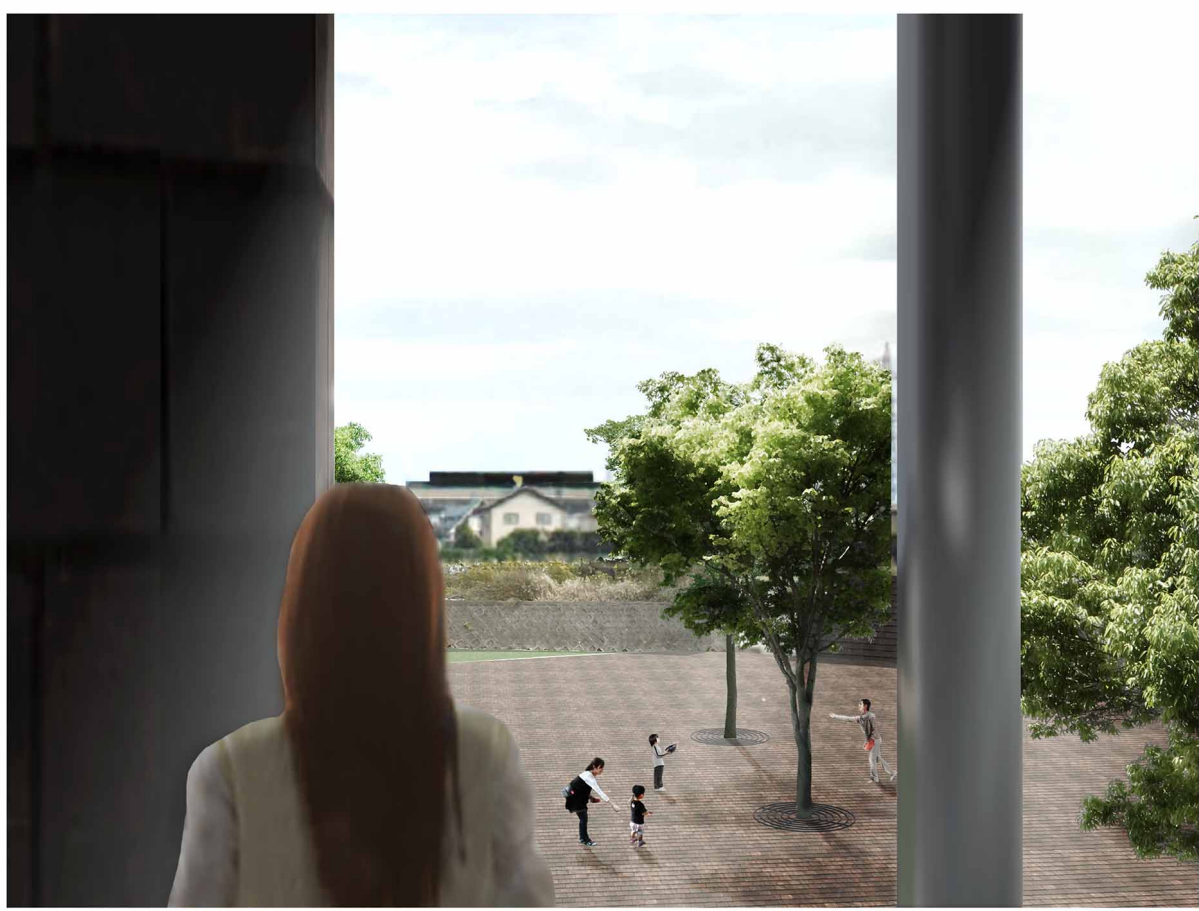
生き残った富山市北部工業地帯は戦後の日本経済をつくり出す上で、日本海側の1つの基盤地域となった。



平和産業富山市北部工業地帯



不二越の工場



North elevation S=1/150



### 3 祝賀大爆撃

「これは、米軍航空部隊の第38回記念日にふさわしい祝賀であり、またカーチス・E・ルメイ少将に対するすばらしい饗別となった。同少将は米国戦略空軍の参謀長となるため、第20航空軍の司令官を辞任する前に、この攻撃を自ら計画しかつ指揮した。」「この記念日の攻撃は、持てる空力を駆使しあらゆる努力を払うように指示する。」

この13回目の空爆は米軍にとって「お祭り騒ぎ」の出撃であった。結果、サイパン島のイスレー飛行場を飛び立ったB29、182機中174機が西から東へと富山市を襲い、1465.5米トンの焼夷弾を投下し、非戦闘員の市民など推定三千人もの人が殺された。



カーチス・E・ルメイ少将



炎上する富山市全域

